第21期第7回常任理事会議事録

日　時　昭和56年2月23日（月）9.45～12.00

場　所　気象庁予報部会議室

出席者　岸保，浅井，荒井，内田，河村，黒木，竹内，増田

報　告

〔庶　務〕

1. 1月30日，日本学術会議研究費委員会委員長から，昭和57年度文部省科学研究費補助金特定研究に係る研究領域について通知がきた．

2. 2月16日，（財）日産科学振興財団から，学術研究の助成決定通知ならびに研究助成金贈呈式案内がきた．（「自然環境に放出された汚染微粒子（サブミクロン・エアロゾル）の滞溜時間粒経分布変化・物質組成変化に関する研究」代表研究者 室蘭工業大学助教授 望月　定会員）

〔会　計〕

1. 気象庁の増築が完成すれば，学会は1階から7階に移ることとなるが，借料を払うようになるかもわからない．

〔講演企画〕

春季大会の予稿集の締切りを従来は，2月末日であったが，特に早めて2月25日とし，各支部長あてに周知方依頼した．2月26日にプログラムの編成作業を行う．シンポジウムは惑星大気とし，具体的なことについては講演題目を見てから決めたい．秋季大会は，名古屋支部から報告があり，会場の都合でやむをえず12月はじめを予定している．

〔長期計画〕

今まで2回委員会を開催したが，次の項目について話題が出たので，特に重点をおく項目を考慮して推進することとしたい．

(1) 気候に関する研究
(2) 応用気象の研究（大気汚染，予報技術など）
(3) 基礎的研究
(4) データの利用と保管
(5) 大型施設の協同利用
(6) 航空機の導入
(7) アジア地区における教育研修
(8) 大学における気象学教育のありかた
(9) 気象関係の文献情報の整理のしかた

なお，武田担当理事から大気物理研究所の構想について検討方の依頼があった．

議　題

1. 岡田賞受賞候補者推薦について

竹内担当理事から，昨年申請が出ている宮沢清治会員のほかに，新たに根本順吉会員を加え2名申請することについて了承された．申請内容は次のとおり

宮沢清治会員（広島地方気象台長）
　予報防災業務の発展に貢献
根本順吉会員（埼玉大学講師）
　多年にわたる気象知識の普及

なお，さきの常任理事会で話題になった申請基準の問題については委員会をもつ機会に検討したい．

2. 山本賞受賞候補者推薦について

内田担当理事から3人の候補者について選考委員会で慎重に審議した結果，多数の賛成があったので安成哲三会員を推薦したい旨報告があり，選定理由書の原案を一部修正のうえ了承された．候補者の対象論文は次のとおりである．

安成哲三会員（京都大学東南アジア研究センター）
「北半球夏季モンスーン時における雲量変動の解析」
（気象集誌第57巻第3号掲載）

3. 学会賞・藤原賞候補者推薦について

松本担当理事に代わり，浅井理事から次のとおり選考経過の報告があった．

(1) 学会賞

会員からの推薦候補者5名および委員会としての3名の候補者を含めて審議した結果，次の2名の方が甲乙つけ難く，特に2件について推薦したいので了承を得たい．

浅野正二会員（気象研究所高層物理研究部）
　大気微粒子―特に非球形粒子―による光散乱の研究
森山茂会員（日本大学生産工学部）
　火星気象学の開拓

(2) 藤原賞

会員からの推薦候補者7名について個別に審議した結果，籾山政子会員は，疾病死亡率の季節変化に関し気象集誌その他に多くの論文を発表し，また権威のあ

る著作出版を通じ国内国外での評価も固まっていること．学会賞にも候補者として推薦されており，学会賞委員からも藤原賞に推薦する旨の悪見が多く，委員全員で推薦することに決定した．

以上，山本賞，学会賞，藤原賞の各推薦候補者について，全理事の書面審査を受けることとした．

4. 気象100年史編纂について

河村担当理事から，奥田前理事と相談して方針をきめた旨報告があった．

(1) できるだけデータを集めて25年間をつけ加える．

(2) 簡単な通史をつける．

(3) 役員の表，会員数，大会の発表数，学会賞，藤原賞等を入れる．

次回までに具体的な計画（案）を出したい．

5. 100年記念事業について

小平準備委員長に代わり内田理事から，2月7日行われた準備委員会の結果について，小平準備委員長の報告書の説明があった．

(1) 天気関連

4月号を特別号とする．座談会20頁，レビュー40頁，通史20頁，総目録80頁，合計160頁として必要経費510万円（謝金を含む），うち200万円の通常経費を差し引くと，記念事業費の支出310万円．

(2) 集誌関連

特別号の invited paper が予想より多くなり約400頁を見込む．事業費よりの支出400万円，編集作業に1号分4.5万円を追加してほしい．

(3) 式典

日時は，春の学会の前日の午後からとし，式典（挨拶，祝辞等）に続いて，学会員以外の著名人（3名位）の講演を予定．

夕方懇親会を開催（費用は参加者負担，大会2日目の懇親会は中止する．）．昭和57年の春季大会は気象大学校が当番に当るので，詳細は大学校と交渉する．

費用：講師謝金，会場費，雑費約50万円，

会場費は，気象庁講堂が使用できない場合他の会場を借りる分，これらの講演等を含めて応援のため担当理事を1名お願いしたい．

(4) Tropical Meteorology

組織委員会　気研台風研究部長及び同研究部村上勝人氏，学会より担当理事 講演企画 村山理事．

期日は秋として気象庁講堂が使えることを前提，レセプションは会費制，経費　90万円．

(5) Ocean Impact Study Conference

気象庁が Host，学会担当　松本理事，本会議には特別の経費はいらないが，雑費が必要となるかも知れない．来日外人のうち数名に地方での講演を依頼する．これに要する旅費，会場費等　75万円

合計 925万円

以上の説明に対し，

ア．Tropical Meteorology については，その後何ともいってきていないし，WMO からも連絡がきていない．

イ．地方で行われる講演会の会場費は，本部から一部負担とする．

ウ．式典，特別講演等の担当理事は，次回の常任理事会で決めることとする．

エ．特別講演の演題については，どういう話をしてもらうのか準備委員会でつめてもらう．一般向きの講演会については別に企画してもらう．

オ．記念切手の発行に関して検討する．

カ．記念事業費950万円を1,000万円とするよう予算措置を講ずる．

6. その他

(1) 天津市気象科学研究所 李 浩氏の投稿論文について．気象集誌担当の二宮理事に検討してもらう．

(2) 秋季大会について

中部支部の申し出について増田担当理事から次のとおり報告があり，了承された．

ア．会期が12月1日（火）～3日（木）となり例年になく時期が遅いが会場の都合でやむを得ない．

イ．シンポジウムはテーマとして「北陸の豪雪」を希望されているが現地の意向を優先したい．

ウ．講師派遣については，中部支部と相談しきめたい．

(3) 地物研連気象分科会の委員について

菊地勝弘，田中正之，岸保勘三郎，山元竜三郎，小野　晃，瓜生道也，増田善信．

以上のほか，気象庁から人事異動を待って2名推薦したい．

(4) IAMAP 第4回（1985年）について

3月2日の気象分科会で方針を決めたい．事務局は東大か京大で引き受けるようにする．次回結果を報告する．

その他　石川直哉ほか12名の新入会員を承認．